

経蔵

もともとは仏教の経典を収めるために建てられたこの建物は、現在では、百済（古代朝鮮半島の3つの王国のうちのひとつ）から602年に日本にやってきた7世紀の僧侶、観勒僧正と伝えられる坐像などの宝物が収められている。『日本書紀』によると、観勒は、天文学や幾何学、また数秘学における豊富な知識により、やがてこの時代の最も影響力の大きな僧侶となった。これらの学問を観勒は日本の学生たちに教えた。また観勒は日本において初めて太陰暦を導入した人物でもある。経蔵にはかつて、法隆寺の3つの「伏蔵」（地下の蔵）のうちひとつがある。これは法隆寺に一大危機が訪れたとき、この伏蔵を開けて中にある宝によって法隆寺を再興することができると伝えられるものである。